

山田みやこの活動報告

平成30年11月3日,4日(土・日)

「子どもの権利フォーラム2018 in とちぎ」に参加

会場：足利市民プラザ・足利地場産センター
「さとにきたらええやん」の上映会から始まった。
大阪市西成区釜ヶ崎「日雇い労働者の街」と呼ばれてきたところで40年近く前に「こどもの里」を開設し、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳～20歳までの子どもを無料で支援している。
それぞれの家庭に寄り添いながら、地域の貴重な場としてあり続けてきた。

その舞台となった「こどもの里」の代表者 認定NPO法人 こどもの里 荘保共子理事長より講演。

釜ヶ崎には社会制度の枠からはみ出され、生きる事に困難を抱えた人たちが集ってくる。しんどい仲間を「見合い」「声かけ」「見守り」「支え合い」のつながりが生まれた。釜ヶ崎という地域性の中で生み出された民間レベルでの取り組み、親だけでは育てられない子を地域で育てようと地元の人たちが預かり育ててきた歴史がある。

親が非正規雇用、不安定雇用でひとり親家庭の子どもたちに貧困が集中。自己責任ということで親と子を責める。だからSOSが出せないでいる。

しかし生きる権利の平等がある。

学校になじめない子、外国人の子、精神疾患やギャンブル依存症の親を世話する子、性暴力などを自分の親から受けていても誰にも言えない子、虐待や暴力から逃げてくる子など居場所が必要。

行政の制度に合わせて区分けできるものではない。

「こどもの里」は0歳から20歳まで年齢問わず、多様な子どもや大人に出会い、豊かな人間性や社会性を育む「遊び場」。ありのままの自分を受け入れてくれる場。親以外の大人との交流によって幅広い価値観にふれられる。

これは子どもの権利である。



こ けんりじょうやく
子どもの権利条約
ふ ん ー ら ん
フォーラム 2018 in とちぎ

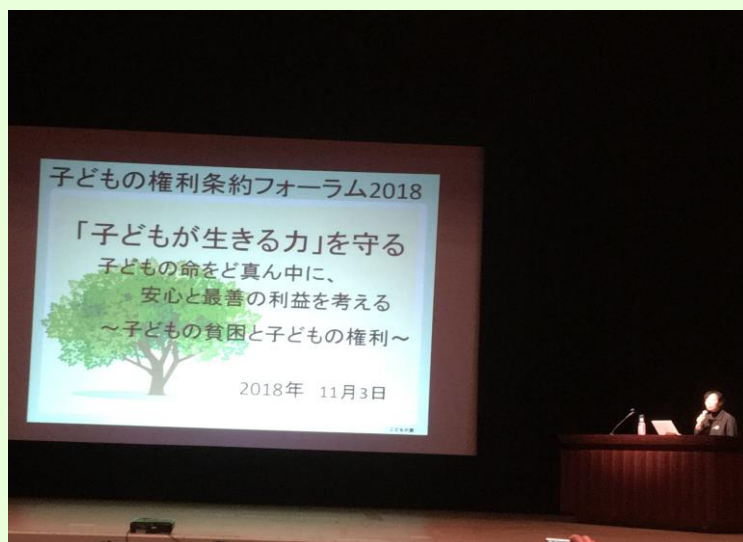
知ろう！聴こう！伝えよう！みんなが未来の主人公

おてな・子ども関係ない!!

11月3日 土 11月4日 日
15:30～17:30 10:00～16:00
受付 10:00より随時 受付 9:30より
「足利っ子わいわいフェスタ」と受付併設

会場 足利市民プラザ・足利地場産センター

【主催】子どもの権利条約フォーラム2018 in とちぎ実行委員会
【共催】公益財団法人足利市みどり文化・スポーツ財団
【よびかけ団体】子どもの権利条約ネットワーク
【後援】栃木県 足利市 足利市教育委員会 足利っ子わいわいフェスタ実行委員会 連合栃木
下野新聞社 NHK 宇都宮放送局



「こどもの里」は貧困や虐待の予防の場、緊急一時宿泊の場、長期保護生活の場、社会的養護のファミリーホーム、子ども版の地域包摂支援センターである。全中学校区にこのような地域包摂支援センターの設置を提案するという回答だった。

子どもの最善の利益は何か。規制や制度のしくみに子どもを無理やり合わせるのではなくて、子どもを「いのち」の方へ制度やしきみを引き寄せたいを考えているというメッセージをいただいた。

〈分科会①〉

オーストリアにおける青少年政策と施策について河野攝さん(エジプト大使館 文化・教育科学局)より講演。

オーストリアでは、ユースワーカーの専門性を重視。子どもは小さな大人ではなく、別個の人格を持っている。子どもの人権を守る、子どもには権利があると、子どもからの話を傾聴し、手間暇をかけることが主体性を育むことになる。

〈分科会②〉

多様な学びフェア

2016年教育機会確保法ができた。不登校児童生徒は適応指導教室が別室で対応。それを民間の学校以外の学びの場において、一定の条件をクリアすれば出席扱いになり、高校入試時の選択肢が増えた。

しかし、この情報公開が広がっていない。

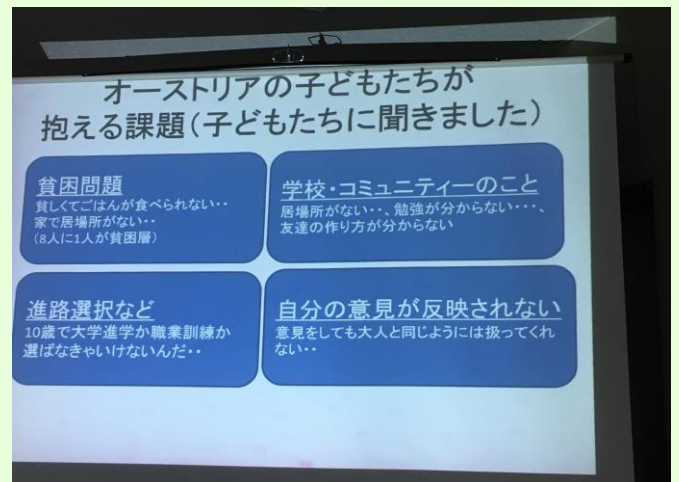
「デモクラティックスクール ひろがる広場」

「小山フリースクール おるたの家」

「守谷プレーパーク」

の活動紹介。

共通していることは、心許せる安心な環境。自分で使いたいだけ時間を使って集中し、内面的なところを表に出せる。そうして才能を引き出し、学習に意欲を出すことができる。フリースクールは不登校の受け皿ではなく、いろいろな学びの場の選択肢であり、ネガティブなものではない。



おるたの家に通う昆虫が好きな子が自分で標本を作ったり、絵を描いたり大変すばらしい作品を目を輝かせて説明してくれた。

大人はただ子どもを見守る。やらなくてはならないという縛りは何もない。その時間を過ごすことを大事にしたい。親の意識の変化で、子ども自身もできるんだという誇らしい表情を出す。自分がやりたい時にやれる実感。学校では出せない真の自分の姿を出せる。

フリースクールは学校のような勉強はしない。学校に近い学習を強いたら拒否反応が出る。

ギューっと頑なになっている子どもの心をとほぐす。勉強がしたいと思うまで待つ。求めてきたら勉強を教える。

このような考えでフリースクールを運営している。学力が全てではなく、多様性の中に大人が見守るということが将来への希望を見つけ生きていくことができるのだと実感した。

